

令和6年度第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議（B分科会）
議事概要

開催日時	令和6年8月7日（火）午前10時00分～12時00分
開催場所	我孫子市役所 議会棟 A・B会議室
出席者	委員：林委員長、小川委員、加藤委員、坂巻委員 事務局（企画政策課）：吉岡課長、河合課長補佐、鈴木主任、西田主任、岡村主任
公開／非公開	公開
傍聴人	1人

【議題】 令和5年度施策評価について

◎基本目標3 あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり

○施策名称：3-1 妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援

<発言要旨>

委員：学童保育室の入室率が100%を超えており、定員を超えた許可を出しているが、それでも希望する児童全員が入室できていないことを考えると、現場では受入れ過多となっていないか。

事務局：5、6年生などは保育の優先度を鑑み、一部入室のお断りをしている。登録者が常に全数来室するわけではなく、あびっこクラブで過ごす児童もいることから、受入れ過多とはなっていない。

委員：学童保育の需要は伸びているが、運営側の人手不足は課題となっていないか。

事務局：運営スタッフの確保には苦慮している。公営の学童については、民間活力を生かした運営形態の切り替えも必要に応じて検討する必要があると考えている。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：3-2 子どもの成長に応じた発達への支援

<発言要旨>

委員：子ども発達センターにて子どもの発達に関して面談をした後に、相談や療育に繋がらなかった方が2%いるが、その具体的な理由は何か。

事務局：平日夕方以降や土日は相談窓口を開設していないため、保護者の方の都合が合わないケースもある。その場合は、民間のサービスを案内し、定期的に状況を確認しているが、この指標では民間利用の場合は実績には反映されない。

委員：それならば、保護者の方にとっては相談の目的を達することができているとも捉えられ、指標が適切でないともいえる。保護者の満足度などの視点があっても良いのではないか。

委員：こども園の現場の立場からすると、こども発達センターはすごく良くやってくれていると感じている。保護者へセンターへの相談を紹介しても一歩踏み出すのがなかなか難しい方もいらっしゃるので、センター側の目標値が高すぎるのではないか。

事務局：市として、子どもの発達支援に関して力を入れていることから高い目標設定となっている。今後も早期発見と療育支援の開始を進めていきたい。他の指標で評価ができないか、いただいたご意見を担当課へ共有させていただく。

委員：教育相談センターの「教育・発達相談継続ケースの利用者の満足度」が94%、「アドバイザーの支援が役に立った率・満足度」が91%だが、それぞれ100%に達しなかった6%、9%の中には否定的な意見があったのか、それとも概ねそうではなかったのか。

事務局：否定的な意見というよりは「ここについては更に・・・」など伸びしろに期待する意見もあった。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：3-3 魅力ある学校づくり

<発言要旨>

委員：不登校児童生徒が増加傾向にある中で継続的な支援を実施していると思うが、その支援している人数に対して、教育支援センターに通っている人数や学校に通えるようになった人数を把握しているか。

事務局：具体的な数字でのお示しとはならないが、校内教育支援センターの実施により

全く家から出られなくなったという不登校児童が0になった学校もあり、今後もこの取組を拡大できるよう検討を進めている。

委員：我孫子産野菜の認知度について学校毎にばらつきがあるが、どのような要因があるか。

事務局：アンケートは食育月間の6月に実施しているが、各学校の栄養士が行う食育指導の時期や我孫子産野菜の日の回数が学校毎に異なること、新入生や転校生の認知度にばらつきが出てしまうことなどが想定される。

委員：我孫子産野菜の認知度を高めるという取組は、我孫子市産野菜を食べることで地元を知り、食を身近に感じ、食育の視点から地域に根付いた魅力的な学校になることを目指していると理解して間違いないか。

事務局：学校給食は食育の観点で学校生活に欠かせないものであり、委員の認識のとおりである。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：3－4 心豊かにする体験・活動の推進

<発言要旨>

委員：あびっ子クラブ登録率を指標としているが、放課後の居場所が特に必要がない児童は登録をする必要がないのではないか。

事務局：登録は自由であるが、子どもたちが放課後や学校が休みの日に自由に過ごし、様々な体験ができる場として、登録しやすい料金設定で運営している。学童保育室との行き来もでき、習い事がある日は出席しないなど、活用も自由となっている。

委員：学校巡回の移動図書館で貸し出し数がどのくらい伸びているのか定量的なものは示せるか。

事務局：移動図書館車の学校巡回における貸出冊数については後ほど共有させていただく。

委員：学校への調べ学習支援件数を指標としているが、学校からの依頼以外に本を直接借りる場合はこの実績とならず、学校図書館の充実も進められているのであれば、指標の設定として再検討すべきではないか。

事務局：学校の図書館の活用がこの指標に含まれていないため、設定について検討する。
また、電子図書館の制度が開始するため、その点も踏まえ検討する。

委員：他の指標についても、例えばチャレンジタイムの回数を設定しているが、参加している子どもたちや保護者の満足度が分かるとより正確に施策評価ができると考える。

<施策の評価>

「良好」とした。

◎基本目標4 あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり

○施策名称：2-2 健康づくりの推進

<発言要旨>

委員：救急搬送の市内医療機関収容率の実績に対するコメントが、動向を注視していくという書き方になっているが、市としてどのように努めていくか、という姿勢が必要ではないか。

事務局：ご指摘を庁内で共有し、引き続き市全体で連携しながら取り組んでいく。

委員：がん検診受診率の数値が未達成となっているが、大人を対象とするPRだけでなく、子どもや学生に対して、学校への訪問やSNSを活用したアプローチも行ってはどうか。日本は検診の受信率が低い傾向にあるので、工夫が必要だと考える。
また、チラシのデザインの改善なども検討すべきではないか。

事務局：千葉県自治研修センターの研修メニューで「チラシデザイン研修」が用意されているので、職員のスキルアップを図って、より市民の皆様や対象者の方に伝わりやすいチラシ作りも含め、改良を進めていく。

委員：複数のがん検診の平均値を算出した指標だと認識しているが、検診の種別ごとの傾向は把握しているか。

事務局：胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんの平均値を算出したものである。それぞれの実績はばらつきがあるが、いずれも目標値には達していない状況である。

委員：各健診等の受診率が低い中で、所管課長コメントの「疾病の早期発見・治療につなげることができた」というのは違和感があり、より向上を目指す観点での記述が適切ではないか。施策の評価としても、より工夫や改善を期待する意味での評価としたい。

<施策の評価>

「良好とはいえない」とした。

○施策名称：2－3 高齢者福祉の推進

<発言要旨>

委員：きらめきデイサービスの利用者が令和元年の計画当初より大幅に減少している。コロナ禍に減少した数字の回復率が芳しくないが、この要因をどのように分析しているか。また、これはいわゆるデイサービスとは異なる事業なのか。

事務局：この事業は市民の方が中心となって運営している地域交流や社会参画、健康づくりなどを目的としたものであるが、コロナ禍で一度離れた利用者が中々戻ってないことが想定される。

委員：現状分析や今後の展望が不十分であると感じるので、次年度に向けては検討が必要である。

委員：介護保険制度内の予防事業と、このきらめきデイサービスで対象や内容が重複していないのか。事業間の役割を整理する必要がある。

事務局：次回の会議で改めて説明した上で評価をいただきたい。

【その他事務局連絡事項】

・本日の会議で基本目標4の2－2まで評価が完了したため、第2回の会議において、基本目標4の2－3から引き続き評価をお願いする。

以上